

1983年出土の木簡



(新発田)

- 1 所在地 新潟県北蒲原郡豊浦町大字天王字曾根
- 2 調査期間 一次 一九八〇年(昭55)五月～一月、二次 一九八一年(昭56)七月～一〇月
- 3 発掘機関 豊浦町教育委員会
- 4 調査担当者 家田順一郎
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 五世紀～一〇世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

曾根遺跡は、福島潟の湖岸に形成された砂丘に立地する集落跡である。

ある。は場整備に伴う緊急調査として、二次にわたり、 111000m^3 を発掘した。

出土した遺構は、掘立柱

建物跡二五棟、井戸跡九基

である。この内、八号井戸

の井筒破片によりC¹⁴による絶対年代の測定を実施し、

AD九四〇年±一二〇年と

新潟・曾根遺跡

いう結果を得た。

遺物の主体は須恵器で、土師器、赤焼き土器とともに、砂丘と後背湿地の境にあたるゴミ捨場から出土したものが大半を占める。総量はコンテナ二〇〇箱である。

木簡を含む木製遺物は、井戸とゴミ捨場から出土したが、大半は後者から出土した。その内容は、下駄、檜扇、箸、桶、鉤、杵、柄杓、火鑓、皿、曲物、船形、斎串、荷札、櫛などである。

文字の記された木片は五例で、すべてゴミ捨場から出土した。なお須恵器等に文字の記入されたものが約三四〇点出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 佛□有

$140 \times 36 \times 7$ 081

(2) 「門繼損同□匪合」

$162 \times 105 \times 6$ 022

(3) 「井於連□□」

$160 \times 23 \times 6$ 021

(4) ×千

×道

$(105) \times 162 \times 5$ 081

9 関係文献

豊浦町教育委員会『曾根遺跡I』(一九八一)

同『曾根遺跡II』(一九八二年)

(家田順一郎)